

2002年3月14日

各 位

昭和電線電纜株式会社  
(コード番号 5805)

中低周波数音域の騒音制御事業の拡大について  
3次元能動消音システムの販売開始、並びに発泡吸音制振材料の開発

昭和電線電纜株式会社(取締役社長: 権正 信行、以下昭和電線)は、一般的なパッシブ防音対策(防音・吸音材)では大きな効果が得られなかった低周波数音域の環境騒音、設備騒音などを対象とする騒音制御事業を2002年4月より展開することといたしました。

社会的関心が高まる騒音に対して、“音で音を消す”「3次元能動消音システム」と中低周波数音域での吸音効果が大きい独自の「発泡吸音制振材」とを組み合わせることにより効果的な消音を実現させるものです。さらに、昭和電線が展開してきた防振、免震、制振、除振の振動制御と新たな騒音制御の両面から、総合的に環境騒音、設備騒音への対策を提案することが可能となります。

この「3次元能動消音システム」(3D-ANCシステム)は、株式会社東芝 研究開発センター殿のアクティブ消音技術を導入し製品化に成功しました。2002年4月から販売開始します。

本システムは、付加音源であるスピーカの近接配置、およびマイクの最適配置を行うことにより、騒音源の放射エネルギーを直接低減させ、騒音源周辺の広い3次元空間の消音に効果があります。特に50Hz~150Hzの卓越騒音に対して10dB[F](音響パワー1/10)低減することができ、従来パッシブ防音対策では効果が少なかった中低周波数の騒音が低減できるようになります。

本システムは、マイク・スピーカ・振動センサ・コントローラから構成されるコンパクトなシステムが特徴であり、分散電源などの発電機、変圧器、コンプレッサー、建設機械・船舶の各種エンジンなどへの適用が考えられます。本システムの販売希望価格は、一式で150万円を予定しています。

また「発泡吸音制振材」は、昭和電線の保有する振動低減用材料技術を使い、独自の配合・製法により発泡形態を制御することができ、市販されている吸音材料と組み合わせることにより、中低周波数音域(100~500Hz)で効果が大きい吸音性能が得られます。

本制振材は、集合住宅における居室などの耳障りな中低周波音騒音対策として、天井・壁に内張りする等の展開が考えられますが、当面は、「3D-ANCシステム」と組み合わせたサンプル出荷を予定しています。価格は、市販ウレタン吸音材と同程度の水準を考えています。

振動・騒音制御事業の売上高は、「3D-ANCシステム」と「発泡吸音制振材」を中心に展開することにより、2004年に20%の拡大を見込んでいます。

この件に関するお問合せは、下記宛にお願いします。

広 報 : 総務部 法務・広報グループ 044-344-1111  
技 術 : 免制振・機能品部 開発グループ 042-773-5329